

## ～企業コミュニケーションの価値を多面的に高める「場」～

日本には企業博物館が全国に1000はあるとみられています。企業博物館を立ち上げ自ら館長を務めた栗津重光さんが、全国170か所の企業博物館の訪問で見出したコミュニケーション価値を、あますところなく伝えます。

## ブレーキ博物館

東京都墨田区堤通 1-7-9 中山ライニング工業株式会社 隅田営業所 2階  
[https://sasga.co.jp/brake\\_museum/](https://sasga.co.jp/brake_museum/)  
03-6657-0347 (完全予約制)

利用時間：午前 10 時 00 分～ 12 時 午後 13 時～ 17 時  
入館料：無料

### 【概要】

ブレーキ博物館は、自動車や産業機械等の保安装置であるブレーキに特化した博物館。約 100 m<sup>2</sup>というこぢんまりとしたスペースだが、ブレーキの仕組みや種類、歴史などブレーキに関する情報が多岐にわたって展示されている。見て、触ってさらに体験することで理解が深まる施設である。

ブレーキ博物館を運営している中山ライニング工業株式会社は 1961 年創業。年間売り上げ 10 億円（ブレーキ博物館スタッフ談）従業員数 110 名と企業規模として大きくはない。主な業務としてブレーキのリビルド（再生）に取り組んでいる。

### 館内

館内は「自動車の歴史」「モノづくりの技とシンボル」「変遷・定義と種類」「ブレーキの仕組み」「製品 PR コーナー」となっているが、いくつかの見どころを紹介してみよう。

#### 1 自動車体験コーナー

自動車のシートに座って実際にブレーキを踏む体験ができる。後述するが、ブレーキシステムにはドラムブレーキとディスクブレーキの 2 種類がある。その両方ともに触れられ、それらの違いが理解できる。

#### 2 ブレーキ展示コーナー

ブレーキの歴史や種類、仕組みなどが学べる。

実際に自動車や機械で用いられているブレーキに触れたり動かしたりすることができる。

#### 3 匠の技コーナー

ブレーキ製造の現場には日本が世界に誇る“職人の技”が数多く存在する。それらの積み重ねが安全なブレーキを作り上げるという職人技を紹介している。

#### 4 新幹線やオートバイのブレーキ

飛行機や新幹線、オートバイに使用されているブレーキのパネル展示で、それぞれの乗り物独自のシステムでブレーキが作動しているという事が学べる。

### ドラムブレーキとディスクブレーキ

自動車のブレーキは、走行中の車を減速させたり停止させたりするための重要なシステム。ブレーキシステムは、大きく 2 つに分けることができる。

ひとつはディスクブレーキで、走行中に車輪と一体になって回転するディスクローターをブレーキパッドで挟み、その際に発生する摩擦力によって制動力を発生させるというもの。メリットは、安定した制動力を確保できるという点、放熱性に優れて水分や汚れをはじきやすいという点があげられる。これにより、とくに高速走行時のブレーキングには大きな威力を発揮する。

もうひとつはドラムブレーキ。車輪の内側に設置されたドラムの内部にブレーキシューが装着され、それを内側から外側へ圧着させることで制動力を発揮するというシステム。構造が簡易であるため低コストであるというメリットがある反面、放熱性が悪いというデメリットがあ



ドラムブレーキとディスクブレーキの構造の違いの説明コーナー。ここで説明を聞いた後シミュレーターを体験することでその違いが認識出来る。(筆者撮影)

げられる。そのため現在では、前輪にディスクブレーキを搭載し、ドラムブレーキを後輪に採用している車が少なくない。また、高級車やスポーツモデルでは、強く安定した制動力が求められるため、前後ともにディスクブレーキを採用した車が多い傾向にある。

#### 顧客・来館者

この施設はもちろん一般の見学も可能だが、町の修理工場、運送会社、カーディーラーのスタッフなどもここでブレーキを学び、自社の顧客対応に役立たせるといふ。

自動車の車検時には、ブレーキの摩耗が見つかる場合が多い。修理、交換という作業がその

後に待っているのだが、車検を依頼した車のオーナーにとって納得のいかないケースも生じる。目視による確認だけでは、ブレーキの摩耗度合いが理解できないのだ。修理、交換には当然、それに見合った費用が発生することになるのだが、オーナーには余分な費用を負担させられたのではないかと疑問が生じることがある。そうした際に、修理工場のスタッフは「ブレーキ博物館」の見学を勧める。疑問を持ちながら博物館を訪れた車のオーナーは一様に納得するという。ブレーキの摩耗がどれだけ危険なのかという事を博物館の展示を通して理解することになるのだ。

#### 【栗津の視点=見どころ】

ブレーキのリビルド（再生）といったビジネスモデルを創案し、起業し、今日の規模まで企業を引き上げた経営者に敬意を表したい。中山ライニング工業は切削技術や加工技術を利用したオリジナル製品の開発にも成功しているが、ビジネスの中心はあくまでもブレーキのリビルドである。そのため、各自動車会社の純正部品のブレーキは取りあつかっていないという。さらに、自社の事業のため「ブレーキ博物館」を開設し、運営を続けていることにも非常に興味を持った。

大手企業ではない規模で企業博物館を開設し、機能させている。来館者は年間わずか350名程度ではあるが、町の修理工場、カーディーラーたちにとってなくてはならない存在の施設なのである。

このような形で企業博物館を成り立たせているというケースは、筆者のこれまで訪れた企業博物館観察の中でも、特記事項と言えるだろう。